

背景

軽症の外国人患者の大学病院等へ受診が多いことから、外国人患者が症状に応じて安心して医療機関を受診できる仕組みづくりが必要

1 外国人患者受入れ医療機関の整備 2 医療情報等の効果的な提供 3 地域における仕組みづくり を推進する必要がある

都の取組

1 医療機関の整備

- (1) 外国人患者受入れ体制の充実に係る
第三者認証取得補助(H28～) 継 8,000千円
対象: JMIPを受審する病院
補助額: 1,000千円×10/10
予算規模: 8病院
- (2) 外国人患者受入れ体制整備補助(H29～) 継 30,000千円
パンフレットや問診票、ホームページの翻訳及び作成に係る費用や
院内資料、案内表示の多言語化等に係る費用への補助
対象: 病院及び診療所
補助額: 1,000千円×1/2
予算規模: 60医療機関
- (3) 医療機関向け救急通訳サービス 拡 26,334千円
(英・中・韓・タイ・スペイン・フランス)
組織委員会の公用語であるフランス語を追加
- (4) 外国人患者対応支援研修(H28～) 継 8,000千円
場面ごとにおける外国人対応時の注意事項や、制度等の説明方法、
医療費の支払方法や未収金防止対策等について学ぶ
規模: 500名×2回

2 医療情報の提供

- (1) 外国人患者向け医療情報サービス ※保健医療情報センター運営費に計上
(英・中・韓・タイ・スペイン)
外国語対応可能な都内医療機関や日本の医療制度等を相談員が案内
- (2) 医療機関案内サービス「ひまわり」 ※医療機関情報システム化推進費に計上
Webサイトによる情報提供(英・中・韓)
外国語対応可能な都内医療機関情報を提供

3 地域における仕組みづくり

- (1) 外国人患者への医療等に関する協議会 新 1,244千円
医療機関や関係団体、観光・宿泊施設等による会議体を設置し、
連携を強化し、外国人への医療提供に係る取組を促進
- (2) 外国人患者が地域で安心して受診できる 新 21,700千円
仕組みづくり支援事業
外国人が多い地域において、地域の実情に応じた外国人患者受入れの取組を
実施
規模: 3地区

(参考) 29年度の取組

- 医療機関向け救急通訳サービスの対応時間拡大 (利用頻度の高い英・中の夜間対応を開始)
- 診療所向け外国人対応マニュアル作成 (受付、診療、会計対応や未収金対策等)
- 医療機関案内サービスひまわりWebサイトの改修 (多言語化やスマホ対応等機能改善)
- 外国人患者への医療提供体制に関する検討会